

<担い手への農地集積等を実施している事例>

○ 「住んでみたい郷土」を子や孫に残そう！

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	広島県府中市上下南 <small>ふちゅうし じょうげみなみ</small>			
協定面積 38 Ha	田 (94%)	畑 (6%)	草地	採草放牧地
	水稻・飼料作物	野菜		
交付金額 691万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	共同活動費 (役員手当)		9%
		事務費		9%
		施設整備・草刈労務費		72%
		その他	10%	
協定参加者	農業者80人, 特定農業法人1組織 (構成員73戸)			

2. 取組に至る経緯

・ 集落の抱える課題

過疎化と農業従事者の高齢化に加えて、主産業である米価の低迷、小規模経営にもかかわらず、個々の農家の所有する農業機械の維持管理経費が増大して、「機械貧乏」の状態に陥り、次第に、耕作を放棄する者が増え、特に、奥深い場所や小面積不整形圃場については、荒廃が進み、猪等の頻繁な出没を招く事態になっていった。

3. 取組の内容

そういう状態を打破する対策の一つとして、まず、中山間地域等直接支払交付金制度の協定を結び、その交付金を活用した共同活動の取り組みによって、荒廃寸前にある耕作放棄地を管理・保全していくことを目指した。

また、直接支払交付金を活用して、農業生産法人を設立するための準備として、大型農業機械・倉庫・その他の機材を購入する一助とした。

「農事組合法人上下南農産」の発足以後は、「農業生産活動の体制整備」については、上下南農産の活動に伴い、目標達成に向かっていく。

平成20年度の取り組みとしては、事業計画に挙げた中で、特に、次の4点を重点的に実施した。

- ① 農道・水路等の保全管理、圃場畦畔の管理 (草刈・耕起)、圃場畦畔への「百足芝 (センチピードグラス)」植栽を拡大し、労力の軽減を図るために、植栽経費を補助する。
- ② 猪等の被害を防ぐ方策の啓発、防護施設設置経費を補助する。
- ③ 耕作放棄地・荒廃地の景観維持と耕地復旧に向けての草刈等保全活動を行う。
- ④ 「農事組合法人上下南農産」の運営・活動に対して補助金を交付し、支援する。

今後の課題としては、圃場整備により拡大した農道・水路の法面などや休耕農地に、景観作物などを植栽する取り組みを検討している。

[集落の将来像]

集落がより発展し継続するために設立した「農事組合法人上下南農産」を担い手として育て、「住んでみたい郷土」を子や孫に残そう！をスローガンに、協定参加者の全員が力を合わせて、地域づくりとして次のことに励む。

- 1・圃場整備を推進し、大型農業機械を導入し、労力節減をはかる。
- 2・圃場整備田は利用権を設定し、「農事組合法人上下南農産」に経営を委ねる。
- 3・余剰労力は、育苗施設等を利用して、野菜栽培、花卉栽培等に利用し、働き場所を作る。
- 4・農作物を利用した加工品を開発、調査研究する。
- 5・自然の環境を生かした、都市交流をし、市民農園等で交流を活発にし、自然や農業に楽しんでもらい上下南農産の農産物の良さをアピールし販路を広める。
- 6・耕畜連携をし、転作作物に飼料作物を作り、協定参加者の酪農専業農家（認定農家）へ提供する。
- 7・後継者の人材育成には努力する。

[将来像を実現するための活動目標]

農業生産活動等

農地の耕作・管理(田 13ha)

個別対応

水路・作業道の管理

・水路 9 km, 年 2 回
清掃, 草刈

・道路 2.2 km, 年 2 回草刈

共同取組活動

労力軽減のため、農地法面
への芝植栽の拡大と、芝植
栽地以外の草刈

個別対応

多面的機能増進活動

「里山作り事業、バッファ
ゾーン」実施林地の下草刈
り(約 1 ha, 年 1 回)

個別対応

景観作物作付け
(景観作物として、水路・
農道の法面にヒラドツツ
ジ・レンギョウを約 200 本
作付けた。)

共同取組活動

農業生産活動の体制整備

上下南農産により、大型農
機で基幹作業を実施。

共同取組活動

現在、協定面積 38 ha の
内、25 ha について、上
下南農産に利用権が設定
されているが、なお、5 h
a の増加を目指す。

共同取組活動

4. 取組による変化と今後の課題等

猪防護柵の設置・畦畔芝の植栽、草刈等の共同作業によって、集落の共同意識が改めて確認され、共同活動の効果と連帯感情とが芽生えてきた。

直接支払交付金制度が終了した後は、猪等防護柵の維持管理・畦畔芝植栽等の経費・不在地主等の耕作放棄地の保全活動経費に対する捻出が課題となる。

平成 20 年度までの主な成果]

- 担い手への利用集積による体質強化(当初 11ha、H18 24ha、H20 25ha、H21 目標 30ha)
- 都市住民との交流による地域の活性化
 - ・「農産まつり」参加者の増(500名(H19)、500名(H20)) H19 から開催

添付資料 活動状況写真

農事組合法人 上下南農産への利用集積により効率的な農作業



圃場畦畔への百足芝（センチピードグラス）の植栽作業



草刈活動



管理梅園 草刈活動

